研究課題名

「沖縄県における非結核性抗酸菌症の菌種分布、臨床像などに関するレトロスペクティブ横断研究」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（承認番号　H27中倫小第１６号）

研究実施についてのお知らせ

　呼吸器内科では、沖縄県における非結核性抗酸菌症の菌種分布、臨床像などに関するレトロスペクティブ横断研究を実施しております。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成２７年７月２４日

【研究課題名】

　　沖縄県における非結核性抗酸菌症の菌種分布、臨床像などに関するレトロスペクティブ横断研究

【研究期間】

　　２０１５年８月１日～２０１６年７月３１日

【調査対象】

　　各施設にて２００９年１月～２０１４年８月までの間にすべての検体からNTMが検出された患者を対象とする。その中から肺NTM症の診断基準を満たす患者について検討する。

【研究目的・意義】

　　非結核性抗酸菌症（以下NTM症）は高齢化や免疫不全患者の増加に伴って世界的に罹患率が増加している。NTMは環境常在菌であり、土壌や水中に広く分布しており、地域によって菌種分布が異なることが知られている。日本本土ではMAC症が８割以上を占め、次いでM.kansasiiが多い傾向にあるが、沖縄での大規模な調査研究は報告がない。沖縄中部病院での過去５年間のNTM検出頻度を調査したところ、M.abscessusなどの迅速発育菌が６割以上を占めており、日本本土や他国と比べて異なる傾向が示唆された。この傾向が当院独自のものであるのか、沖縄の他の施設でも同様の傾向なのか比較検討を行う必要があると考えた。今回、琉球大学病院、国立沖縄病院との３施設合同の調査研究を考えている。通常の診療行為で得られた検査結果、臨床情報についてカルテよりレトロスペクティブに情報を収集する。本研究は沖縄でのNTMの菌種分布、NTM症の実態を明らかにし、新知見を得ることができる。それらにより、人々健康福祉の向上に貢献する。本研究成果は、患者の個人情報を保護した上で公表される予定であり、県内外の医療従事者、国民にとって貴重な情報となる。

【研究の方法】

研究は各施設の診療録、検査結果から情報を収集し、レトロスペクティブに行う。全ての検体からNTMが１回以上検出された患者を抽出し、菌種、年齢、性別、基礎疾患、喫煙歴などの背景を調査する。また、肺NTM症と診断された患者においては、画像所見、同時に検出された微生物の検討も行う。

【個人情報の取扱い】

カルテを用いてレトロスペクティブに行う調査研究である。研究を行う際には研究責任者により連結可能匿名化してデータ収集を行い、匿名化されたデータのみを用いて解析を進めることにより、個人情報を保護した上で研究を遂行する。研究が終了した段階でデータは連結不可能とする。研究の報告については多施設の集計結果として報告され、個人を特定しうる情報が含まれていないものとする。個人情報の保護を徹底することにより研究対象者が不利益を被る可能性を排除する。

【研究機関】

　　沖縄県立中部病院、琉球大学医学部附属病院、国立沖縄病院

【本研究に関する問い合わせ先】

　　沖縄県うるま市宮里２８１

沖縄県立中部病院　呼吸器内科　長野宏昭（内線２６３２）